

報告

中山間地域におけるフィールドワークの取り組みの成果 (第2報) —学生のレポート分析より—

大西 昭子^{1*}, 高藤 裕子¹, 野村 美紀¹, 坂本 結¹, 森本 美佐子²

要約：本研究の目的は、中山間地域におけるフィールドワークの取り組みによって学生が考える身につけた力と、学生が捉えた公衆衛生看護に必要な視点の内容を明らかにすることである。対象者はX短期大学の学生21名とし、学びを記述したレポートからコードを抽出し、質的帰納的に分析した。その結果、学生が身につけた力では、【地域特性を生かした支援を考える力】、【先を見通し広い視野で考える力】、【人とつながり協働する力】、【保健師活動の前提となる力】等の7つのカテゴリーが抽出された。また、公衆衛生看護に必要な視点では、【現場に足を運び地域を捉える】、【地区組織活動の役割を理解して協働する】、【住民のもつ力を引き出し側面から支える】、【信頼に基づくつながりをつくる】等の7つのカテゴリーが抽出された。このことから、フィールドワークでの経験は、今後の公衆衛生看護への理解の深まりと保健師としての力量形成につながる基礎的な力を身につける第1歩になったと考える。

キーワード：フィールドワーク、公衆衛生看護、保健師教育、地区組織活動

はじめに

公衆衛生看護学は、対象となる住民の生活を捉え、地域に住む人々の生活の質(QOL)の向上を目指すことを目的としている。X短期大学の専攻科では、3年間の看護師養成課程で習得した看護の知識体系を基盤にして、さらに専攻科に進学して1年課程で公衆衛生看護学を専門的に学んでいる。厚生労働省は平成25年に、地域における保健師の保健活動に関する指針¹⁾を示した。そこでは、個別課題から地域課題への視点及び活動の展開、地区活動に立脚した活動の強化や、地区担当制の推進など、積極的に地域に出向いて住民のニーズを明確にし、住民と協働して健康づくりを推進することが保健師の役割として述べられている。つ

まり、保健師には人々の生活の場である地域に向き、住民とつながり協働して活動することがより一層求められている。このような保健活動が実践できる看護専門職者を養成するためには、まずは生活や地域の実情を具体的に理解できることが基礎的な力として不可欠である。

しかし、X短期大学における看護師養成課程では、地域に出て、住民の生活に直接ふれたり、地区組織活動や保健活動を目の当たりにすることが少ないため、公衆衛生看護学で対象とする「地域のすべての人々の生活を捉える」ことが言葉では理解できても、実体験が伴わないことからイメージができていく現状があった。このことは、大須賀も「(学生は)生活体験が少ないうえ、地域を

¹⁾高知学園短期大学 専攻科地域看護学専攻 *Email: aonishi@kochi-gc.ac.jp

²⁾高知学園短期大学 専攻科地域看護学専攻 非常勤講師

意識した経験がほとんどなく、複雑多岐な要素により構成され多様な看護ニーズを包含する「地区」や「地域」という概念が理解できにくい²⁾」と述べている。そこで、専攻科の前期の授業にフィールドワークを導入し、実際に中山間地域に足を運び、住民活動への参加や地区踏査、住民へのインタビューを通して、体験から生活や看護の対象である地域を捉えるということを学ぶ機会が必要ではないかと考えた。

筆者らの第1報³⁾では、X短期大学で実施したフィールドワークでの学生の学びの内容と地域や生活に対する捉え方の変化を明らかにした。その結果、学生の地域を診る視点が広がり、生活や地域の捉え方が変化していた。さらに、住民主体の地域活動を支援するといった公衆衛生看護の視点に立って考えることにつながっており、一定の成果が確認された。そこで、第2報では平成30年度生を対象とし、学生が、フィールドワークで身につけた力として考えるものにはどのようなものがあるのか、また、公衆衛生看護に必要な視点をどのように捉えたのかという観点でフィールドワークの成果を検討することとした。

本研究により、保健師の教育課程におけるフィールドワークの取り組みの成果が明らかになることで、保健師教育の質の向上の一助となり、より専門性の高い看護専門職者の養成につながる事が期待されると考える。

研究目的

本研究は、X短期大学専攻科で、公衆衛生看護学概論の授業として取り組んだフィールドワークにおいて、学生が身につけた力と公衆衛生看護に必要な視点について、学生自身の考えを明らかにすることを目的とする。

研究方法

1. 研究デザイン

本研究は、フィールドワークでの体験に基づいて学生が身につけた力と、公衆衛生看護に必要な視点が何であるのかを、学生の視点からありのま

まに捉えることが必要であるため、質的記述的研究デザインを用いて研究を行った。

2. 対象者

X短期大学専攻科において公衆衛生看護学を学んだ学生21名のうち、研究の参加に同意が得られた者とした。

3. 用語の定義

本研究で用いる用語を以下のように定義した。

身につけた力とは、フィールドワークを経験することによって学生自身が獲得したと考える力や思考のひろがりのことである。また、必要な視点とは、学生自身がフィールドワークを通して捉えた、公衆衛生看護に携わる保健師に求められる活動や考え方、姿勢のことである。

4. 授業の概要

1) フィールドワークの位置づけ

フィールドワークは公衆衛生看護学概論の授業の一環として位置づけ、15コマ分の9コマで実施した。平成30年度は振り返りの時間数を1コマ分増やし、学びの報告の前にグループで各自の体験を共有し、振り返って考える時間を確保した。

2) フィールドワークの目的

フィールドワークの目的として、以下の3点を掲げて実施した。

- (1) 地域の中で人々の生活にふれ、リアリティをもって人々の生活の多様性を理解する。
- (2) 人々の集まりである地域の個別性にふれ、地域を診る視点を養う。
- (3) 地域で暮らす人々とふれ合い、その思いを聞くことによって、住民主体の活動の実際を理解し、人々の健康的な生活を支援する「公衆衛生看護」がイメージできるようになる。

3) 授業の概要 (表1参照)

(1) 事前学習：90分×2コマ

グループワークにて、住民の生活と地域を理解するための視点をそれぞれ話し合った。また、地区踏査でコミュニケーションツールとして活用するために地域で実施されている運動教室の案内チラシを作成した。さらに、本授業に対する個人及

びグループの目標を立て、学生自身が何を得てくのかという目的意識をもって現地に臨んだ。

(2) 現地での学習：90分×4コマ（1泊2日）

- ① 住民主体の地区組織活動への参加，参加者へのインタビュー調査
- ② B町の概要及びB町の保健活動に関する講義
- ③ ワールドカフェによる地区組織活動等を担う住民や関係機関との交流学習
- ④ 地区踏査とプレゼンテーション，住民との交流

(3) 事後学習：90分×3コマ

地区踏査の結果をまとめ、グループでプレゼンテーションを行った。さらに、2日間の学びをレポート課題とし、学生個々の理解度を評価した。

表1 授業の概要

回・時間数	形態	内容
第1回 (90分×2コマ)	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・生活とは何かを考え、そこから地域を診る視点を話し合う ・地域での運動教室の案内チラシの作成 ・グループ及び個人の目標を設定する
第2回 (90分×2コマ)	フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・B町の概要および保健事業に関する説明 (B町社会福祉協議会、B町保健師) ・住民主体の地区組織活動への参加及び交流 ・ワールドカフェ
第3回 (90分×2コマ)	フィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・地区踏査およびプレゼンテーション ・住民との交流
第4回 (90分×3コマ)	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・地区踏査結果のまとめと健康課題の抽出 ・報告と学びの共有，評価

4) 事前の準備

A県B町をフィールドワークの実施場所として設定した。実施にあたっては、地元の社会福祉協議会と複数回の話し合いを行い、実施内容を協議しながら、関係機関の協力の下にフィールド

ワークを実施した。

5. データ収集方法

本研究では、学生がフィールドワークに参加することで得た学びを記述したレポートより内容を抽出した。レポートの項目は、①フィールドワークを通じての学び、②地区組織活動が中山間地域で果たす役割、③フィールドワークでの体験を通して身につけた力や成長、④フィールドワークでの体験を基にして公衆衛生看護で重要だと感じたこと、の4点である。

6. データ分析方法

本研究に同意のあった学生21名から提出されたレポートの内容を質的帰納的に分析し、フィールドワークで学生が身につけた力と、公衆衛生看護に必要な視点が記述されている部分を抽出し、コード化した。抽出したデータはKJ法を活用して分析し、類似したコードをまとめて、カテゴリー化を行った。分析にあたっては、研究者全員で検討を重ねることにより、分析の信頼性と妥当性の確保に努めた。

7. 個人情報の保護

個人情報の取り扱いには十分配慮し、外部に漏れないように厳重に管理した。個人情報を保護するため、データは匿名化し、書類等は研究者が鍵のかかる棚で保管し、研究室で分析をすすめた。

8. 倫理的配慮

本研究は、平成29年度及び平成30年度の研究計画について、平成29年度高知学園短期大学研究倫理審査委員会の承認を得た上で実施した(承認番号 第28号)。対象者に対して、研究の目的及び方法、研究の参加に伴う負担や時間的制約の有無、研究参加への任意性、プライバシーの保護と匿名性の保証、データの管理方法、途中辞退の権利の保証、研究に参加しないことによる不利益は生じないこと、研究成果の公表方法、個人情報の保護等について、口頭及び書面上で説明した。そして、対象者から文書にて同意を得た上で研究を進めた。なお、本研究による研究対象者の心理的負担を防ぐために、研究参加への依頼とデータ分析は、当該科目の成績を提出した後に行った。

9. 利益相反

研究者と研究対象者は教員と学生の関係であるが、この研究において開示すべき利益相反はない。

結果

1. 対象者の属性

対象者は、平均年齢が22.7歳で、性別は女性が19名で男性は2名であった。全員が看護師免許を有しており、看護師としての臨床経験をもつ学生が1名含まれていた。

2. フィールドワークを通して学生が身につけた力 (表2)

フィールドワークでの体験を通して、学生がどのような力を身につけたと考えたのか、その内容について分析した。その結果、抽出された89のコードから、【地域を総合的に捉える力】、【健康課題を導き出そうとする力】、【地域特性を生かした支援を考える力】、【先を見通し広い視野で考える力】、【地域住民と深く対話する力】、【人とつながり協働する力】、【保健師活動の前提となる力】の7つのカテゴリと20のサブカテゴリが抽出された。その結果を表2に示す。以後、カテゴリは【 】、サブカテゴリは《 》、コードを「斜体」で示す。

1) 地域を総合的に捉える力

【地域を総合的に捉える力】とは、中山間地域に足を運び、生活の場で直接、住民の声に耳を傾けることで、地域の特性や強みに目を向けながら、幅広い情報を集約して地域全体を把握することができることである。

このカテゴリは、《地域を広く見渡して観察する力》と《地域の強みに目を向ける力》、《地域ごとの特性を捉える力》の3つのサブカテゴリで構成されている。

《地域を広く見渡して観察する力》は、以下のコードに代表された。

「人以外の環境からも地域のことを知るための

情報が隠れていることを学び、色々な情報からアセスメントしなければならないと感じ、地域を診る力がついた」

「地域を診るということは、調べる、話を聞く、自分の足で歩き、目で見ると、様々な活動が含まれているのだということ学んだ」

「まだ観察や考える視点が狭いと痛感し、もっとまわりのことに注意を向け、コミュニケーションをより多く取ることが必要だと学んだ」

《地域の強みに目を向ける力》は、以下のコードに代表された。

「地域や対象の良いところにも目を向けて考えていきたいと思えるようになった」

「地域の課題だけでなく強みを見つけ、それを生かしていくためにはどうすればいいのかという視点が大事と考えた」

「車がないと移動しづらく、人が減っていることを住民も実感しているが、移住者が多く、人づきあいを大切にして地域での行事を積極的にしている人が多い強みがあることを見つけることができた」

《地域ごとの特性を捉える力》は、以下のコードに代表された。

「フィールドワークでは、授業で行った地区踏査の時よりも、地域ごとの特性を見い出せるようになった」

「地域を歩くことで地域の特徴を掴む力が身についた」

「人々の思いを聞いて地域の個別性を考えることの必要性を理解できた」

2) 健康課題を導き出そうとする力

【健康課題を導き出そうとする力】とは、データや環境面から地域を診て考えられるものだけでなく、住民とのコミュニケーションの中で知り得た思いや生活の実際を含めて、そこから地域の健康課題を深く思考しようとすることである。

このカテゴリは、《生活と地域をつなげて考える力》と《地域を診て健康課題を考える力》の2つのサブカテゴリで構成されている。

《生活と地域をつなげて考える力》は、以下のコードに代表された。

「住民の話を聞くことで、生活から地域へとつなげて診ることができるようになった」

「地域の印象だけでなく、そこで生活する住民の大変さを考えることができるようになった」

「事前に得られた地域の情報と住民の思いをつなげて考えることができた」

《地域を診て健康課題を考える力》は、以下のコードに代表された。

「地域の特徴を掴み、そこからその地域が抱える健康課題を考える力が身についた」

「健康課題を考える過程では、交通手段やスーパーの位置、どこにどの年代の方が暮らし、どのように生活しているかなど視点を広げていくことが必要だと学んだ」

「地区踏査や他のグループの発表を聞き、高齢化や過疎化の問題の背景にある健康課題は都道府県ごとと市町村ごとだけではなく、地区ごとにも異なるということが分かった」

3) 地域特性を生かした支援を考える力

【地域特性を生かした支援を考える力】とは、フィールドワークで、人々の生活を知り、また地域の中にある資源や住民の存在等に実際にふれることで、課題抽出だけにとどまらず、その後の支援に具体性を持たせながら課題解決の方策を考えることができるようになることである。

このカテゴリーは、《地域の資源を生かして必要な対策を考える力》と《住民の目線に立って必要な支援を考える力》、《保健師としての支援のあり方を考える力》の3つのサブカテゴリーで構成されている。

《地域の資源を生かして必要な対策を考える力》は、以下のコードに代表された。

「自分には、その場にとどまってしまう傾向があったが、その先のことを考えることの重要性を学び、地域の資源と住民をつなぐ方法を考えられるようになった」

「地域の住民と資源、組織とをつなげて考え、その対策も少し考えられるようになった」

「情報収集の能力を基に、健康課題に対しての対策を考える力である計画立案能力を身につけることができた」

《住民の目線に立って必要な支援を考える力》は、以下のコードに代表された。

「地域の人がどうしたらより健康的な生活を送れるかについて考えられた点に成長を感じた」

「地域を知るだけでなく、住民の声に対して支援していくことの重要性を知ること、その方法を考えられるようになった」

「住民の話を聞いて、対象に合った活動を考えていく力が身についた」

「B町の特性や住民の思いを知る他に、どうすれば住民がより暮らしやすくなるのか、考えることができるようになった」

《保健師としての支援のあり方考える力》は、以下のコードに代表された。

「地域での自主組織活動に参加していない住民へどう支援したらいいのか考えられるようになった」

「保健師の、人と人との関わりがない人がいたらその人たちをつなぎ、その人の生活をより良くしていく重要性を学び、公衆衛生看護についても考える事ができるようになった」

「これまでは、その地域を知ることを目的に地区踏査をしていたが、それだけにとどまらず、その地域について知り、住民の声に対して支援していくことができるようになった」

「地域に出向いて初めて知れることや個別性を大切に、今何が必要かをグループで意見を出し合うことで、公衆衛生看護について考えることができた」

4) 先を見通し広い視野で考える力

【先を見通し広い視野で考える力】とは、フィールドワークで人々の生活や思いの多様性を知ること、目の前にあるもの以外の一人ひとりの生活を想像したり、少し先の将来を予測したりして、

地域全体の課題を明らかにできるようになることである。

このカテゴリーは、《個の課題を統合して地域全体を考える力》と《捉えたものを発展させて幅広く考える力》、《目に見えない人々の生活や将来を予測する力》、《広い視野で物事を見て考える力》の4つのサブカテゴリーで構成されている。

《個の課題を統合して地域全体を考える力》は、以下のコードに代表された。

「住民一人ひとりを見て支えていくことで地域全体の健康につながることを学んだ」

「地域に入ってみて、『鳥の目』『虫の目』という大きく広い視野で見ることと、個人など狭めた部分で地域を診ることができた」

《捉えたものを発展させて幅広く考える力》は、以下のコードに代表された。

「高齢化や過疎化という問題の背景には、様々な健康課題が隠されていることを知った」

「地域で同じ目的をもった人達が集まることでつながりが生まれるため、そこに視点を置いて考える事が大事だと気づけ成長できた」

「物事を見る視点が増えたことで自分の考える幅も広げることができた」

《目に見えない人々の生活や将来を予測する力》は、以下のコードに代表された。

「現状だけでなく、今後や他の可能性などを想像する力が身についた」

「健康でいたいという思いの背景には一人ひとり違う考え方があることを知り、その方の生活を想像して考えることができるようになった」

「インタビューを行った人以外には店までの交通手段が無い人もいると思うため、その方への支援を考えていくことも重要だと分かった」

《広い視野で物事を見て考える力》は、以下のコードに代表された。

「周りがあるものが当たり前ではないという、今まで自分になかった視点で物事を見る力が身についた」

「人々の生活の多様性を理解することの大切さを理解できた」

「住民一人ひとりが地域や生活での目指す姿や問題意識をもっており、それに対応して、より良い地域や生活にしていこうと取り組んでいることを知ることができた」

5) 地域住民と深く対話する力

【地域住民と深く対話する力】とは、フィールドワークで住民とやり取りをすることで、相手の立場に立って住民から理解が得られるような説明の仕方や伝え方を学び、相互作用の中で必要な情報や住民の思いを引き出すための基礎を身につけることである。

このカテゴリーは、《住民の思いを聞き出せる力》と《分かりやすく他者に伝える力》の2つのサブカテゴリーで構成されている。

《住民の思いを聞き出せる力》は、以下のコードに代表された。

「地区踏査で、地域特有の思いや課題を聞くことができた」

「住民の方と話す際、聞きたいことを頭に入れて話すことで、話の流れの中で上手く質問ができるということが分かった」

「コミュニケーションを通じて、その地域の住民同士のつながりや地域全体における健康課題についてなどの様々な情報を、必要に応じて収集する能力を身につけることにつながった」

《分かりやすく他者に伝える力》は、以下のコードに代表された。

「自分の意思の伝え方が改めて身についた」

「説明する時には、『伝わっている』と思い込まずに、相手のことを把握した上で、説明や意義を伝えなければいけないと学んだ」

「自分側の視点から、相手側（住民側）の視点で考えて、言葉を選び説明していくことも重要だと思った」

6) 人とつながり協働する力

【人とつながり協働する力】とは、フィールドワークでの人との交流やグループ活動を通して、他者と良好な関係を構築するためのコミュニケーションや人を尊重して敬う気持ちももて、自分の役割を果たしながら共に活動できるようになることである。

このカテゴリーは、《チームで協力しながら自分の役割を果たす力》と《人と関係を築くためにコミュニケーションをとる力》、《人を大切に思える力》の3つのサブカテゴリーで構成されている。

《チームで協力しながら自分の役割を果たす力》は、以下のコードに代表された。

「グループでの活動の中でメンバー一人ひとりの行動を見て自分ができることをしたことが成長である」

「グループワークでの取り組みを通して、他者と協力して、物事をやり遂げる力が身についた」

「1人で動かずに相談し合って協力してできた」

《人と関係を築くためにコミュニケーションをとる力》は、以下のコードに代表された。

「良好な関係を築くためのコミュニケーション能力を身につけることにつながった」

「住民と話し、話の聞き方を身につけることができた」

「人と関わるのが苦手な地域の方々のコミュニケーションに苦労したが、地域の方と自然に話すことができ、一歩踏み出せるようになった」

「地域を知るという目的をもつことで、地区の人に話しかけることができるようになった」

《人を大切に思える力》は、以下のコードに代表された。

「人を大事にするこの意味について深く考えることができた」

「自分たちを迎え入れてくれている、感謝の思いをもったコミュニケーションを心がけ、実践できた」

7) 保健師活動の前提となる力

【保健師活動の前提となる力】とは、中山間地域という学生の日常とは違う生活圏域に出向くことで、今まで経験したことのない新しい発見に疑問や楽しさを感じてさらに知ろうと努力したり、考え計画したことを実行に移したり等、地域で活動するために必要となる行動ができるようになることである。

このカテゴリーは、《関心をもって知ろうとする力》と《計画を立てて実行にうつす力》、《地域を診ることを楽しめる力》の3つのサブカテゴリーで構成されている。

《関心をもって知ろうとする力》は、以下のコードに代表された。

「地域の自主活動の意味や目的、参加者の思いを理解するために活動に参加したいと考えた」

「地域の人々の健康的な生活を支援するためには、地域について“知ろうとする姿勢”が重要だと考えた」

「公衆衛生看護活動を行うにあたっては、地域を“知ろうとする姿勢”を大切にすることで、住民一人ひとりをそれぞれしっかりと知ることが大事である」

《計画を立てて実行にうつす力》は、以下のコードに代表された。

「計画したものを具体的に実現するための能力を身につけることができた」

「計画的に物事を進める力が身についた」

《地域を診ることを楽しめる力》は、以下のコードに代表された。

「地域を見るという楽しさを実感することができるようになった」

「地域住民と話す楽しさを知った」

このように、中山間地域におけるフィールドワークの経験を通して学生は、人々の生活の場である地域に足を運び、自分の目で地域を診たり、住民の声を直接聴いたりすることによって【地域を総合的に捉える力】を獲得することができた

表2 フィールドワークを通して学生が身につけた力

カテゴリー	サブカテゴリー
地域を総合的に捉える力	地域を広く見渡して観察する力
	地域の強みに目を向ける力
	地域ごとの特性を捉える力
健康課題を導き出そうとする力	生活と地域をつなげて考える力
	地域を診て健康課題を考える力
地域特性を生かした支援を考える力	地域の資源を生かして必要な対策を考える力
	住民の目線に立って必要な支援を考える力
	保健師としての支援のあり方考える力
先を見通し広い視野で考える力	個の課題を統合して地域全体を考える力
	捉えたものを発展させて幅広く考える力
	目に見えない人々の生活や将来を予測する力
	広い視野で物事を見て考える力
地域住民と深く対話する力	住民の思いを聞き出せる力
	分かりやすく他者に伝える力
人とつながり協働する力	チームで協力しながら自分の役割を果たす力
	人と関係を築くためにコミュニケーションをとる力
	人を大切に思える力
保健師活動の前提となる力	関心をもって知ろうとする力
	計画を立てて実行にうつす力
	地域を診ることを楽しめる力

考えていた。さらに、その捉えを基盤として、【健康課題を導き出そうとする力】や【地域特性を生かした支援を考える力】を身につけることができ、さらに【先を見通し広い視野で考える力】として、将来を予測したり、対策を考えたりするなどの公衆衛生看護で必要となる予防的な視点をもつことができたことと捉えていた。また、地域住民に自ら話しかけ、一人ひとりの声に耳を傾けるという体験が、学生の【地域住民と深く対話する力】につながり、さらにはグループ活動や住民との交流を通して【人とつながり協働する力】や【保健師活動の前提となる力】が身についたと考えていることが分かった。

3. フィールドワークで学生が捉えた公衆衛生看護に必要な視点（表3）

フィールドワークでの体験を通して、学生が公衆衛生看護に必要な視点をどのように捉えたのか、その内容について分析した。その結果、抽出された195のコードから、【現場に足を運び地域を捉える】、【地域や生活について住民から教わる】、【地域の課題に沿った活動をする】、【地区組織活動の役割を理解して協働する】、【住民のもつ力を引き出し側面から支える】、【住民のパートナーとして共に活動する】、【信頼に基づくつながりをつくる】の7つのカテゴリーと25のサブカテゴリーが抽出された。その結果を表3に示す。

1) 現場に足を運び地域を捉える

【現場に足を運び地域を捉える】とは、客観的

な資料や既存データからだけではなく、実際に生活の場である地域に自らの足で出向いて、五感を活用し地域を感じたり、住民の立場に立ったりして地域を把握することである。

このカテゴリーは、《五感を使って地域を捉える》と《足を使って地域に出向いて地域を捉える》、《住民の立場に立って地域を捉える》の3つのサブカテゴリーで構成されている。

《五感を使って地域を捉える》は、以下のコードに代表された。

「五感を生かし様々なことを感じ、知ることが、地域の問題を解決するための対策を具体的なものにすることを学んだ」

「実際に自分の足で歩いて、たくさんのものを目で見て感じ、五感を最大限活用して地域を見ることが重要だと感じた」

「より深くリアルな地域を知るためには、自分の体と五感を働かせて地域を見ることが重要である」

《足を使って地域に出向いて地域を捉える》は、以下のコードに代表された。

「既存のデータから地域のことを知ることも大切であるが、実際にその地域に足を運ぶことで、それらがさらに深まり、既存のデータにはない新たな発見をすることができると思った」

「実際に地域を歩き、関わらないと『地域』というものは見えてこないと体験を通して実感した」

「実際に地域を歩くことで、高齢者が生活をする中での困難さを知り、支援が必要であることを学んだ」

「実際に地域に行くことで、資料やデータではわからないその地域の住民の思いを知ることができた」

《住民の立場に立って地域を捉える》は、以下のコードに代表された。

「保健師には住民が生活するうえで、どんなことに困るかという視点をもって地域を診ることが求められる」

「地域で生活をしている住民の立場になって地域を歩くと、様々な発見があることを学んだ」

「住民の立場に立ち、意識して地域を歩くことで大変さだけでなく、地域の良さにも気づくことができる」

2) 地域や生活について住民から教わる

【地域や生活について住民から教わる】とは、地域に出向いて住民から話を聴くことで、数値的なデータからだけでは理解できない、その地域に住む住民の様々な生活のあり方や思いを知ることである。

このカテゴリーは、《多様な価値観や生活のあり様を理解する》と《住民の声をひろい生活を知る》、《住民の思いに耳を傾ける》の3つのサブカテゴリーで構成されている。

《多様な価値観や生活のあり様を理解する》は、以下のコードに代表された。

「同じ市町村に住んでいても住民によって生活は異なり、思いやニーズも違うことを理解した」

「人々の暮らし方や生活史などによって、生活の中で抱く思いや困難感は異なってくることを学んだ」

「地域住民の目線に立って関わるためには、住民の価値観を一緒に大切にする姿勢が必要であると気づいた」

「住民の生活、思いや考え、生きがいなどを尊重し理解したうえで関わるということが重要である」

《住民の声をひろい生活を知る》は、以下のコードに代表された。

「住民へのインタビューを通して、見ただけでは知ることのできない住民の生活や住民同士のつながりを知ることができた」

「直接住民と顔を合わせ、話を聞くことで、既存資料ではわからない住民の生活の実態や悩み、希望を知ることができる」

「インターネットや既存資料からでは得ることは難しい、その地域の生の声を聞き、その地域の人の暮らしや思いを知ることができた」

《住民の思いに耳を傾ける》は、以下のコードに代表された。

「住民一人ひとりが健康でいたいという思いや、やりたいことがあるという希望をもっていることに気がついた」

「地域を診ていくためには、まずその土地について知り、住民と関わっていくことが大事だと学んだ」

「公衆衛生看護において、地域で暮らす人々の健康を守るうえで大切なことは、地域の人の声を聞くことであり、その声をもとに健康問題や支援を考え導き出さなければならない」

3) 地域の課題に沿った活動をする

【地域の課題に沿った活動をする】とは、地域に出向き把握した地域の特性や住民のニーズに合わせて、その地域で必要とされる活動を見出し、実施し、状態に合わせて改善しながら継続していくことである。

このカテゴリは、《地域にうもれている課題を探し出す》と《地域や住民のことを深く知り地域に合った活動をする》、《地域特性に添った対策を継続する》の3つのサブカテゴリで構成されている。

《地域にうもれている課題を探し出す》は、以下のコードに代表された。

「人とつながっていない人を探し出す大切さを学んだ」

「地域の集まりに参加していない住民にも目を向けて、住民とつながっていない人を見つけることも大事である」

「実際に見たり聞いたりすることで、潜在的な問題を考えていくことも公衆衛生看護活動では重要だと感じた」

《地域や住民のことを深く知り地域に合った活動をする》は、以下のコードに代表された。

「既存資料やデータのみでなく、その地域で生活している住民の声を聞き、その地域に必要な保健活動をするのが大切である」

「住民の思いや考えを実際に聞き、地域をより良くするための事業を行っていく」

「人的物的資源が少ない中でもできる、地域に即した目標設定が必要であると実感した」

「地域もそれぞれ特徴が違い、その地域のニーズに合った支援が必要だと学んだ」

「地域の強みやより良い取り組みを生かしながら地域の課題に向けた取り組みを行い、住み慣れた地域で住民が過ごしやすい環境をつくるのが大切である」

《地域特性に添った対策を継続する》は、以下のコードに代表された。

「地域に合った対策を考え、それを継続していくことが重要である」

4) 地区組織活動の役割を理解して協働する

【地区組織活動の役割を理解して協働する】とは、地域の実情に応じた活動をしている地区組織活動の果たしている役割を知り、必要な人をつなぐことを通して、地域の中で協働して共に活動することである。

このカテゴリは、《地区組織活動の役割を理解する》と《地区組織活動が人をつなぐことを理解する》、《地区組織の人々と協働する》、《地区組織間の連携の状況を把握する》、《地区組織につなぐ関わりをする》の5つのサブカテゴリで構成されている。

《地区組織活動の役割を理解する》は、以下のコードに代表された。

「地区組織は、地域住民が身体的にはもちろんのこと、精神的にも社会的にも安心して健康で過ごせるようにするために、必要なことを第一に考えていると感じた」

「地区組織は、住民と信頼関係を築き、個別性に対応できるようにしていた」

「地区組織活動は人とのつながりを深め、地域を活性化する役割を果たしている」

「地区組織は、B町の住民が健康で過ごしやすい地域にするために、日々試行錯誤して取り組

みを行っている」

「地区組織は、子どもから高齢者まで幅広い年代の住民が、地域で自立して生活していくための役割を果たしている」

「地区組織が活発に活動し、人々がつながりを深めながらより良い生活を送れるように連携することで、住民のコミュニティ形成や生きがい、満足感をもつことにつながっている」

《地区組織活動が人をつなぐことを理解する》は、以下のコードに代表された。

「地区組織の活動は、地域の中で住民をつなぐ役割を果たしていると思った」

「それぞれの組織があることで、B町の住民がつながって暮らすことができていると考えた」

「地区組織は、ソーシャル・キャピタルを醸成し、住民が自らの力で課題を解決していけるように支援するため、人と人をつなぐ役割を果たしている」

「地区組織は、人々の生活や交流を見守って、人と人をつなぐ大きな役割を担っていることがわかった」

《地区組織の人々と協働する》は、以下のコードに代表された。

「地区組織は、保健師と連携して共に地域をより良い環境にするための役割を果たしている」

《地区組織間の連携の状況を把握する》は、以下のコードに代表された。

「それぞれの地区組織が連携して取り組んでいることが分かった」

「地区組織が連携し、普通だったら出会うことがなかったであろう人々が互助していた」

「地区組織はB町の住民の思いやニーズを把握し、住民同士のつながりを広げるために個々の力を発揮しつつ、お互いが密な連携をとっている」

「地区組織が役割分担して、得意な分野でもっている力を使って、地域の問題や要望を解決している」

《地区組織につなぐ関わりをする》は、以下のコードに代表された。

「地区組織活動を住民に知らせて、参加しても

らえるような支援が必要である」

「地区踏査や家庭訪問で孤立している人を見つけ出し、地域での取り組みにつなげることが大切である」

5) 住民のもつ力を引き出し側面から支える

【住民のもつ力を引き出し側面から支える】とは、地域や住民の強みを見い出して、それを生かすことで、住民が地域の中で生きがいをもって主体的に活動できるように支えていくことである。

このカテゴリーは、《住民が集う場の継続を支える》と《住民の主体的な活動を支える》、《住民が生きがい活動を持続するために支える》、《地域の強みや良さを引き出して生かす》、《住民のもつ力を生かす》の5つのサブカテゴリーで構成されている。

《住民が集う場の継続を支える》は、以下のコードに代表された。

「住民が集まって取り組むことを継続して行うことが、B町の健康課題に向けた支援であると感じた」

「保健師は地区組織の取り組む集いの場が継続していけるように調整することが大切である」

《住民の主体的な活動を支える》は、以下のコードに代表された。

「地域全体の健康を支えるためには、住民一人ひとりが自ら健康に向けて取り組み、その住民の行動を支えることが大切である」

「住民の自主的な気持ちを理解し、活動できる環境を作って支えていくことが大切である」

「課題から対策を考える時には、住民が主体的に継続できるものである必要性を学んだ」

《住民が生きがい活動を持続するために支える》は、以下のコードに代表された。

「生きがい活動を持続していけるような支援が必要だと考えた」

「高齢者に日々の生活への楽しみや生きがいをもち続けてもらうことが、心身共に健康に過ごしてもらうためには必要だと学んだ」

「地域住民の思いやニーズに合わせた支援や事業は、住民の生きがいやコミュニティ形成につながるため、これらのことを重要視することで事業が継続できる」

《地域の強みや良さを引き出して生かす》は、以下のコードに代表された。

「保健師には地域の強みや良さを引き出す活動が求められる」

「保健師として地域に関わる際には、地域を理解すると共にその地域のもっている力を生かす介入や支援が重要だと考える」

《住民のもつ力を生かす》は、以下のコードに代表された。

「環境や住民同士のつながり、思いを知り、住民の力を生かしていくことが必要である」

「公衆衛生看護活動で重要なことは、住民のもつ力を生かし、主体性を大事にすることである」

「高齢者のもっている力を引き出し、維持できるように関わりをもつことが重要である」

「住民の暮らしを長い目で考え、行き過ぎた支援は住民の力を奪ってしまうことを理解する」

6) 住民のパートナーとして共に活動する

【住民のパートナーとして共に活動する】とは、保健師が日常の地域活動を通して住民から頼りにされるような関係を築き、住民と同じ立ち位置で共に考えたり行動したりすることである。

このカテゴリーは、《住民から頼りにされる存在になる》と《住民と共に考え活動する》の2つのサブカテゴリーで構成されている。

《住民から頼りにされる存在になる》は、以下のコードに代表された。

「地域に関わる中で頼りになる存在が（理想とする）保健師である」

《住民と共に考え活動する》は、以下のコードに代表された。

「住民が自分らしく生き生きと生活していけるように、住民と一緒に考えることが大切である」

「健康課題に対して、住民や地域の個性、強み

をどう生かすのか住民と共に考えることが重要である」

「専門職として何かを提供するというより、コミュニティの一員として住民の願いや問題意識を引き出して共有し、協力していく形が適切であると考えた」

7) 【信頼に基づくつながりをつくる】

【信頼に基づくつながりをつくる】とは、保健師自身が、人と人がつながり合うことの意義を理解し、住民と良好な関係を築きながら、地域の中で人とつながったり、つなげたりする調整を行うことである。

このカテゴリーは、《住民同士がつながれる場をつくる》と《住民との間で関係性を築く》、《地域の人々とつながり、つなげる》、《人々がつながり合うことの意味を実感する》の4つのサブカテゴリーで構成されている。

《住民同士がつながれる場をつくる》は、以下のコードに代表された。

「事業やイベントを通して、住民がつながることができる場や機会をつくるのが大切である」

「仲間や地域で支え合いががんばることができるように、住民が集う場や交流しやすい環境づくりが重要である」

「人のつながりを大切にするために、交流の場の提供が大切であると学んだ」

「地域に住む方が地域の交流イベントに参加してもらえるよう機会を増やし、参加しやすい体制を整える工夫が重要だと感じた」

《住民との間で関係性を築く》は、以下のコードに代表された。

「チラシや放送などで伝えることだけではなく、個人で話し合い、関係性をつくることも重要であると考えた」

「地域で暮らす住民が地域の目指す姿を共有することを支えるためには、保健師自身が一人ひとりと信頼関係を築くことが必要である」

「住民と交流をもつことで、コミュニティに溶

け込む力の必要性に気づくことができた」

《地域の人々とながら、つなげる》は、以下のコードに代表された。

「黒子となって多職種と連携して、住民のつながりをつくるのが保健師に求められる」

「地域で暮らしている人々が孤立しないためにつながりを強めることの大切さを学んだ」

「人と人とをつなぐにあたっては、住民一人ひとりの地域の目指す姿をすり合わせることで、公衆衛生看護活動では重要である」

「公衆衛生看護活動には、地域の人と人とをつなぐ役割がある」

《人々がつながり合うことの意味を実感する》は、以下のコードに代表された。

「人の思いやつながりを大切にすることで、問題の解決策が生まれ、地域全体の暮らしが健やかになると考えた」

「同じ目標をもつ仲間がいるということは、精神面や社会面においても健康へとつながっており、人と人がつながることがとても大きな利益を生むことがわかった」

「人とつながることで、健康で生き生きと地域で生活することができる」

「地域の中での人と人とのつながりが強いことによって、お互いが気に掛け合い、助け合える関係を築き上げることができることを実感した」

このように、フィールドワークを通して学生は、公衆衛生看護に必要な視点として、保健師は常に【現場に足を運び地域を捉える】ことと、【地域や生活について住民から教わる】ことを大事にすることを学んでいた。また、これらの活動を通して学生は【地域の課題に沿った活動をする】と共に【地区組織活動の役割を理解して協働する】ことを保健師に求められることとして認識していた。さらに地域で活動する際には、【住民のもつ力を引き出し側面から支え（る）】たり、【住民のパートナーとして共に活動（する）】したりするために、住民と【信頼に基づくつながりをつくる】ことが必要であることを学んでいた。

考察

1. 地区組織活動への理解の深まり

本研究の結果、学生が捉えた公衆衛生看護に必要な視点には、【現場に足を運び地域を捉える】ことや、【地域や生活について住民から教わる】ことと共に、【地区組織活動の役割を理解して協働する】、【住民のもつ力を引き出し側面から支える】、【住民のパートナーとして共に活動する】ことがあった。そして学生は、【地域を総合的に捉える力】を身につけたという実感を得ていた。

奥田ら⁴⁾は、地域看護学実習において実習生が捉えた保健師の専門性について、学生の印象に残った保健師活動に関する実習記録を分析し、「多角的な視点で見る」、「住民自らの課題解決能力を高める」、「即座に違和感をアセスメントし解決する能力をもつ」、「資源につなぐ」、「地域のケア力を高める」等のカテゴリーを抽出した。本研究においても、五感を使って地域を捉え、住民の声を直接聞くことや生活に着目することなど、学生は同様の学びを得たといえる。その中で本研究の特徴は、学生が住民から教わる姿勢や、地域のことを知ろうとする姿勢を強く意識し、住民の目線に立っていることである。これは今回の取り組みが、公衆衛生看護学を学び始めた時期に実施したフィールドワークであることが関係していると考えられる。即ち、保健師としての学習を深める前に、生活者として住民と同じ目線で地区組織活動に参加したことの効果であると考えられる。

また、地区組織活動が住民の生活の中で果たす役割や、住民のもつ力に対する理解が促進されたこともフィールドワークの成果である。フィールドワークでは、学生が実際に地区組織活動に参加し、参加者と交流する機会をつくった他、B町内のNPO法人、就労継続支援B型、民生委員、食生活改善推進員、社会福祉協議会の代表者に参加してもらい、日頃の活動について小グループで話をする、ワールドカフェを実施した。

ワールドカフェでは、4～5名の少人数で話をするすることで、学生の緊張が和らぎ、各組織の代表者の活動に対する思いを受け止めやすかったと考

表3 フィールドワークで学生が捉えた公衆衛生看護に必要な視点

カテゴリー	サブカテゴリー
現場に足を運び地域を捉える	五感を使って地域を捉える
	足を使って地域に向いて地域を捉える
	住民の立場に立って地域を捉える
地域や生活について住民から教わる	多様な価値観や生活のあり様を理解する
	住民の声をひろい生活を知る
	住民の思いに耳を傾ける
地域の課題に沿った活動をする	地域にうもれている課題を探し出す
	地域や住民のことを深く知り地域に合った活動をする
	地域特性に添った対策を継続する
地区組織活動の役割を理解して協働する	地区組織活動の役割を理解する
	地区組織活動が人をつなぐことを理解する
	地区組織の人々と協働する
	地区組織間の連携の状況を把握する
	地区組織につなぐ関わりをする
住民のもつ力を引き出し側面から支える	住民が集う場の継続を支える
	住民の主体的な活動を支える
	住民が生きがい活動を続けるために支える
	地域の強みや良さを引き出して生かす
	住民のもつ力を生かす
住民のパートナーとして共に活動する	住民から頼りにされる存在になる
	住民と共に考え活動する
信頼に基づくつながりをつくる	住民同士がつながれる場をつくる
	住民との間で関係性を築く
	地域の人々とつながり、つなげる
	人々がつながり合うことの意味を実感する

える。そして、それぞれの組織が得意な活動分野をもっていることを知り、地区組織活動が、出会うはずのなかった住民と住民をつなぐこともあること等が印象に残ったのではないかと考える。

さらに、複数の地区組織活動の話を一度に同じ場所で聞くことで、各組織の目的や活動の特徴を対比して理解しやすくなり、組織毎の強みや組織間の連携のあり方について、イメージしやすくなったと考える。

「住民組織はソーシャル・キャピタルの『核』となる存在である⁵⁾。」と言われている。しかし、

フィールドワーク実施前の学生にとって、地区組織活動は身近な存在ではなかったと考えられる。フィールドワークの中で、学生が地区組織活動に参加し、参加者や代表者の思いを直接聴いた体験により、学生は、個人と個人、個人と組織、組織と組織の関係に目を向けて、人と人や、組織と組織をつなぐことの効果や意義を深く理解できたと考える。さらに、地区組織活動の現在の活動だけでなく、会の目的、立ち上げの経緯などを知ることにより、これらの地区組織活動を継続し、未来につなぐことが大事だと、次世代への支援につい

でもイメージできたと考える。

越田ら⁶⁾は、新人保健師のネットワーク形成技術の獲得のために、地域住民が新人保健師に行く具体的支援内容と効果を検討し、「土地勘がない担当地区への戸惑い」や「ネットワークのイメージが曖昧で具体が分からない」と感じていた新人保健師が、住民から地域を学ぶことで、「担当地区をもっと知りたい」というネットワーク形成の動機づけにつながった過程を明らかにしている。さらに、住民が新人保健師の頑張っている芽を摘まないよう、「地区の保健師を大事に育てる」関わりをしていたことを明らかにしている。

保健師が地域のことを理解し、地域に根差した専門職として成長し、活動するためには、住民の協力が重要な役割を果たしていると考えられる。今回のフィールドワークにおいても、住民や地区組織が学生を受け入れ、自分たちの活動や生活について教えてくれる等の、有形無形の教育的支援が得られたことによって、学生の地域への関心が高まり、理解が深まったことが示唆された。

2. 地域特性を生かした支援に対する考え方の広がり

学生は、地域の人々や生活にふれることで、住民一人ひとりへの支援が地域全体の健康につながることに気づき、生活の多様性や保健師として必要な視野の広がりについて学ぶことができた。また、その中で、目に見えない人々の生活や将来を予測することの必要性に気づき、【先を見通し広い視野で考える力】や地域の【健康課題を導き出そうとする力】を身につけることができたと感じていた。一口に、健康課題といっても、その背景には様々な社会現象や地域特性などから問題が生じていることが考えられる。フィールドワーク前の学生は、情報をつなげて地域を診て健康課題を導き出すことが難しかった。しかし、フィールドワークによって、統計データや環境面から診る地域だけでなく、その地域で暮らす住民の思いにも耳を傾け、そこにある生活に目を向けて、健康課題を考えることができるようになったと捉えてい

た。これは、地域に出て住民の生の声を聴く体験により気づくことができたのではないだろうか。さらに、地域に出ることで、地域に潜在している支援を必要とする存在があることに気づき、関わるという保健師活動の楽しさを体験から感じることもできたのではないかと考える。

また、今回のフィールドワークでは、事前事後の学習を含み、様々な機会を通してグループワークを行った。事後学習では、フィールドワークから得た学生の共通体験を基に多方面からの意見を出し合い、同じ目標に向かい地域特性に合った視点で考える作業ができていた。このように、学生は地域での人々との関わりを通して、地区組織活動に参加していない人や保健師との関わりのない人より良い生活に向けた支援について、学生間で意見を出し合い、住民の目線に立った【地域特性を生かした支援を考える力】を得たと捉えることにつながっていた。土井らは、「公衆衛生学は、科目の特徴から統計やデータ分析等、難しい印象を受けやすい。地域をキャンパスとして、できるだけ自由にグループ活動をさせることで、自己の感性を解き放ち、自ら楽しく学ぶことにつながる⁷⁾。」と述べている。このことから、フィールドワークでの体験を学内に持ち帰り、グループで議論を重ねることで、情報をつなぎ合わせて【健康課題を導き出そうとする力】につながったのではないだろうか。そのため、フィールドワークでの体験に終わらせず、振り返りの時間を確保し、得てきた情報をつなぎ合わせて考える作業を行うことが【先を見通し広い視野で考える力】と【健康課題を導き出そうとする力】を身につけるために必要であると考えた。これらの力は、フィールドワーク後の公衆衛生看護学実習において、地域診断をしていくうえで非常に重要な力である。

菅原らは、学生の実習において「地区踏査や住民インタビューによって当該地域に特徴があると、学生が実感したことが、地域看護診断の必要性の理解につながっている⁸⁾。」と述べている。実習前に地域や生活に触れ、地域特性に気づき、人々の健康的な生活を支援する公衆衛生看護をイ

メージできたことは、実習における学びに大きくつなげることができると考える。今回のフィールドワークでは、健康課題を導き、必要な対策までを考えることができたことと捉えていた。学生は、この力を生かすことで、実習では、その地域の将来を見据え、より地域に根づき、住民に合った実現可能な対策を導くことができるのではないだろうか。そのためにも、教員は、今回学生が身につけた力を実習で効果的に発揮できるように関わっていく必要性が示唆された。

3. 対象を深く理解するためのコミュニケーション能力の獲得

B町でのフィールドワークを通して学生は、【地域住民と深く対話する力】や【人とつながり協働する力】を自らが身につけた力として認識していた。また、学生は【信頼に基づくつながりをつくる】ことが公衆衛生看護に必要であると考えていた。

フィールドワークでは、地域で暮らす人々とふれ合い、その思いを聴くことによって、住民主体の活動の実際を理解することを目的の1つとしている。厚生労働省の看護基礎教育の充実に関する検討会報告書⁹⁾では、近年の同世代の若者同様、看護学生にコミュニケーション能力が不足している傾向があると述べられている。このような背景から、フィールドワークで初対面の人と会話をし、その人の思いを聞き出すという方法は、学生にとって困難を感じるものであったかもしれない。しかし、学生は、住民に自ら声をかけ、その人の思いを聴くことに努めており、コミュニケーションを図る際には、相手に応じた言葉を選ぶことや、聞きたいことをきちんと伝え、納得して答えてもらうことが重要であることを学んでいた。さらに、この体験を通して学生は、住民の思いを知るために【地域住民と深く対話する力】を身につけることができたと感じていた。

保健師には、幅広い視野で対象のニーズを捉えるためのコミュニケーション能力が求められる。また、地域の課題解決のためには、保健師同士や

多職種と日頃から意図的にコミュニケーションを図っていくことが重要である。学生は、フィールドワークで取り組んだグループワークにおいて、他者とコミュニケーションを図りながら、協力して物事を成し遂げることができたことで、【人とつながり協働する力】が身についたことを実感していた。地域における保健師の保健活動に関する報告書¹⁰⁾では、保健師は住民や組織をつなぎ、相互の関わりが育まれるように支援する必要性があるといわれている。そのため、住民同士をつなぎ、つながれる場をつくることや住民と組織をつなぐという、保健師にとって重要な役割を果たすために、この学生が身につけた【人とつながり協働する力】を生かし、住民と信頼関係を築くことが求められる。

平野らは、行政機関の保健師に求められる政策に関する能力として「保健師管理者は新任保健師を育てるなかで、〈様々な人と接することができるコミュニケーション能力が重要である〉と感じていた。また、〈きちんと人と向き合い、話を聴ける〉、〈自分の考えを表現できる力が必要である〉など、【基盤となるコミュニケーション能力がまず重要である】と考えていた¹¹⁾」と述べている。このように、コミュニケーション能力は、保健師活動において基盤となる重要な能力である。本研究の結果から、学生はフィールドワークを通して、住民に自ら声をかけ、コミュニケーションを図ることができたことで、一歩前に踏み出せたという自信にもつながっていることが考えられた。学生にとっては、初めての経験であるフィールドワークで、保健師に求められるコミュニケーション能力がすべて身についたわけではない。しかし、学生が一歩踏み出せて成長できたことはフィールドワークの成果であると考えられる。そして、今後も引き続き、意図的に授業の中にグループワークやロールプレイなどを取り入れ、コミュニケーションを図ることで技術を定着させていく関わりが必要であると示唆された。

4. 学生が身につけた保健師の基盤となる力

本研究の結果、学生はフィールドワークを通して、【保健師活動の前提となる力】を身につけたことが明らかとなった。学生は、フィールドワークで実際に地区組織活動に参加し、生き生きと活動している住民たちの声に耳を傾け、活動の場面やその効果を目の当たりにしていた。また、住民に主体的に声をかけ、思いを聴く体験を通して、対象を理解するためには知ろうとする姿勢が大事だということを学び取っていた。このような体験が学生の《関心をもって知ろうとする力》を引き起こし、看護専門職者としての自覚を後押しすることにつながったのではないかと考える。この“知ろう”とする姿勢は、保健師の個別支援における対象理解の場や地域診断の場面、支援を必要としない住民に対しても働きかける等の保健師活動に欠かせない要素になるのではないだろうか。岡本ら¹²⁾は特に強化が必要な行政保健師の専門能力として、政策や社会資源を創出する能力と活動の必要性と成果を見せる能力を挙げている。これらの能力を獲得していくためには、まずは《関心をもって知ろうとする力》が前提としてあることで、地域に必要な支援を知ったり、活動の根拠を明らかにしたりすることが可能になるのではないかと考える。

また、フィールドワークではグループワークを通して、事前に計画を立て役割分担をしながら地区踏査をすることによって、《計画を立てて実行にうつす力》や《地域を診ることを楽しめる力》につながっていた。

これらの力は、今後、学生が地域に出て保健師活動を展開する際に欠かすことのできない姿勢であると考えられる。筆者らの第1報¹³⁾でも、フィールドワークにおいて学生が人々とふれ合う楽しさや保健師活動の面白さを感じ、地域に対する愛着が芽生え、看護専門職者としての意識が高まったことが明らかとなっている。住民の生活の場に向き、人々と関わりながら活動を行っていく保健師の能力を獲得していくためには、生活体験が少ない等の学生たちの特性を考慮して、より地域が

イメージできるような取り組みが必要である。

このように、本研究の結果から、フィールドワークの経験によって学生の公衆衛生看護への理解が深まり、保健師としての基礎的な力を身につけることにつながったと考える。そして、他者との相互交流の中で保健師活動の楽しさを実感し、体験しながら保健師に必要な技術を獲得していく過程は、今後の保健師教育の中で重要な教育方法のひとつとなるのではないかと考えた。

結論

中山間地域におけるフィールドワークによって、学生が身につけた力と、学生が考える公衆衛生看護に必要な視点について、以下の結論が得られた。

1. 住民や地区組織が学生を受け入れ、自分たちの活動や生活について教えてくれるといった関わりによって、学生の公衆衛生看護に必要な地域への関心が高まり、理解が深まった。
2. フィールドワークによって、公衆衛生看護に必要な地区組織活動が住民の生活の中で果たす役割や、住民のもつ力に対する理解が促進された。
3. 学生は、目に見えない人々の生活や将来を予測することの必要性に気づき、【先を見通し広い視野で考える力】や地域の【健康課題を導き出そうとする力】を身につけることができたと捉えていた。
4. フィールドワークを通して、学生は住民に自ら声をかけ、深く対話する力を身につけたことで、一歩前に踏み出せたという自信につながったと考えられた。
5. フィールドワークでの体験が学生の《関心をもって知ろうとする力》を引き起こし、看護専門職者としての自覚を後押しすることにつながったのではないかと示唆された。
6. 他者との相互交流の中で楽しみながら保健師に必要な技術を獲得していく過程は、今後の保健師教育の中で重要な教育方法のひとつとなるのではないかと考えた。

研究の限界と今後の課題

本研究によって、学生が身につけた力や公衆衛生看護に必要な視点の内容から、学生が捉えたフィールドワークの成果を明らかにすることができた。しかし、評価については、客観的な修得度を測定できないことに本研究の限界がある。また、身につけた力はフィールドワークの実施直後のデータであり、かつ学生の認識であるため、今回の身につけた力や学びが卒業時まで持続できているかどうかについては明らかにできていない。今後は、本研究の結果からフィールドワークの取り組みの成果が、フィールドワーク後の実習や講義にどのように生かされているのかを追跡調査していくことが必要であると考えます。

謝辞

フィールドワークの実施にあたりまして、多大なご協力をいただきましたB町社会福祉協議会の皆様方、そしてB町役場や地域住民の皆様方に心より感謝申し上げます。

また、本研究に快くご協力くださいましたX短期大学専攻科の学生の皆様方に感謝いたします。

引用文献(References)

- 1) 厚生労働省：地域における保健師の保健活動に関する指針，**2013**，<http://www.nacphn.jp/topics/pdf>. (アクセス日2017年10月30日)
- 2) 大須賀恵子：看護大学生の地区診断技術を高める教育方法の検討 地区踏査・マッピングの導入，*保健師ジャーナル*，**2006**，第62巻，第10号，876-881.
- 3) 大西昭子，高藤裕子，野村美紀他：中山間地域におけるフィールドワークの取り組みの成果（第1報），*高知学園短期大学紀要*，**2018**，第48号，15-34.
- 4) 奥田美恵，豊田ゆかり，田中美延里他：地域看護学実習において実習生が捉えた保健師の専門性，*四国公衆衛生学会雑誌*，**2010**，第55巻，第1号，126-132.
- 5) 地域保健対策におけるソーシャルキャピタルの活用のあり方に関する研究班：住民組織活動を通じたソーシャル・キャピタル醸成・活用にかかる手引き，**2015**，<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000092157.pdf> (アクセス日2018年9月21日)
- 6) 越田美穂子，森寿々子，池内明子他：地域住民との協働による，新人保健師のネットワーク形成技術の獲得を支援する教育プログラムの検討，*四国公衆衛生学会雑誌*，**2014**，第59巻，第1号，115-122.
- 7) 土井紀子，山崎千枝美：フィールドワークを用いた地域の理解に関する学びの実態—看護師教育2年過程の公衆衛生学における演習の試み—，*第43回（平成24年度）日本看護学会論文集 地域看護*，**2013**，179-182.
- 8) 菅原京子，後藤順子，渡會睦子他：地域看護診断を主要な目標とする実習の成果と課題，*山形保健医療研究*，**2005**，第8号，41-51.
- 9) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書，**2007**，<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/d1/s0420-13.pdf> (アクセス日2018年9月23日)
- 10) 地域における保健師の保健活動に関する検討会，地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書，**2013**，http://www.jpha.or.jp/sub/pdf/menu_04_2_h24_02.pdf (アクセス日2018年9月22日)
- 11) 平野美千代，佐伯和子，上田泉他：行政機関の保健師に求められる政策に関する能力と必要な保健師基礎教育の内容 市町村に勤務する保健師管理者への面接調査から，*日本公衆衛生雑誌*，**2012**，第59巻，第12号，871-878.
- 12) 岡本玲子，塩見美抄，鳩野洋子他：今特に強化が必要な行政保健師の専門能力，*日本地域看護学会誌*，**2007**，第9巻，第2号，60-67.
- 13) 前掲3)

受付日：平成30年10月30日

受理日：平成31年2月18日

Report

**The 2nd report: Results of Fieldwork in a Mountainous Area.
— From Student' Report Analysis —**

Akiko OONISHI^{1*}, Yuko TAKATO¹, Miki NOMURA¹, Yui SAKAMOTO¹,
and Misako MORIMOTO²

Abstract: The purpose of this study is to clarify the acquired skills and mind-set factors necessary for public health nursing through fieldwork. Our sample target was 21 students at junior college 'X'. Selected code words were extracted from the students' reports and were then analyzed both qualitatively and inductively. As a result, we selected seven categories of acquired skills needed, including: Ability to consider the use of regional support; Ability to think ahead by consolidating information; Ability to cooperate with people; and Ability required for public health nursing activities. We also chose seven public health nursing mind-set factor categories, including: On-site visit and grasp of the situation; Understanding the role of community organization and collaboration; Drawing on and supporting the residents' strengths; and Creating a relationship based on trust. From these results, it appears that fieldwork experience is the first step in the acquisition of fundamental ability, leading to a deeper future understanding of public health nursing, and formation of competence as a public health nurse.

Key words: fieldwork, public health nursing, public health nurse education, community organization

¹Kochi Gakuen College, Advanced Course in Community Health Nursing, *Email: aoonishi@kochi-gc.ac.jp

²Kochi Gakuen College, Advanced Course in Community Health Nursing, Part-time lecturer

